

インドへの道 ～女4人、デリーで市場の調査をする～

小松久恵

1. はじめに

アジア学科の女性教員4人で何か共同研究がやりたいな、という話が先だったのか、それとも学内研究奨励費の申請募集があることを知ったのが先だったのか、今となっては記憶も定かではない。とにかく良いチャンスとばかりに4人で作戦を立て、アジア学科ならではの「多様性」をキーワードに「インドにおける市場と女性」というテーマで申請書を作成し、めでたく資金の獲得となった。研究対象地としたインドは多言語、多文化、多民族で構成される、まさに「多様性」にあふれる国である。一つの州内はもとより、市内であっても経済レベル、宗教、コミュニティ等によって分けられた多様な文化社会が存在し、それは市場を構成する要素——顧客層、使用言語、取扱品目、立地など——にも明確に表れる。その多様性あふれる空間に、女性はどうにかかかわっているのか。これを明らかにすることを共同研究のテーマとした。

ずいぶん漠然としたテーマとしたのには理由がある。それは我々4人が、それぞれに異なる地域と分野を研究対象としているためである。そのためどの角度からでも取り組むことができるよう、共通テーマはあえて大きなものにした。私自身は長年インドを研究対象としてきたこともあり、まずは調査全体のコーディネートを第一とし、第二に女性の消費活動がどれくらい自由なのか観察することを自分の研究テーマとした。それは後にも触れるが、インドでは従来、買い物は男性がメインで行うものとされてきたからである。2000年代に書かれた現代ヒンディー語文学においても、夫が家計を管理する設定が複数見られる¹。現在の大都会デリーにおいて、その状況に変化はあるのだろうか。何等かの変化を感じることができるのかどうか、確認したいと考えた。

これらのテーマとは別に、私にはもう一つの大きなテーマがあった。それは初めてインドを訪れるという3人の先生たちに、インドを満喫してもらおうこと。できるだけ安全で快適に過ごしてもらいたい。そのため事前準備には時間をかけ、綿密に計画を立てた。

本稿はこの研究成果の一部であるが、むしろ「旅の準備編」と位置付けるのにふさわしい。現地調査を行うためにはどのような準備が必要であったのか、今後フィールドワークに出かける学生諸君の参考になればとも思う。

2. インドに行く前に

①調査日程ならびに調査地の決定

4人そろっての現地調査を行うにあたり、まずは日程の調整である。8月は雨期のため、屋外が中心である市場調査には不向きである、そのため12月の後半に決定した。調査地については、まず日本からのアクセスに便利で、かつ私自身が留学生として5年間暮らして現地の流通言語ならびに情勢を熟知しているという理由により、首都デリーを拠点

とした。デリーでの調査候補地としては、多様な市場を観察するために、①超近代的ショッピングモール（Select City Walk、DLF エンポリウム）②高級市場（Khan Market、Meher Chand Market）③庶民的市場（Chandni Chauk、Lajpat Nagar Market、Sarojini Nagar Market）④卸市場（INA Market）⑤政府系市場（Dilli Haat）の5パターンを網羅することを目標とした。これらの市場は北デリー（オールドデリー）にあるChandni Chaukを除く大半がデリー南部（宿泊先も同様にデリー南部）に位置する。それは交通の便が良いことと、私自身がデリー南部により詳しいことが主な理由である。

②現地とのやりとり

宿泊先には、安全で快適な空間を第一に考えた。ここ数年、デリーではサービスアパートメントという家具ならびに台所を備えた宿泊施設が増加しつつある。4名と一緒に滞在するにはこのタイプの宿が最適であると考え、デリー南部の閑静な住宅街にあるサービスアパートメントに予約を入れた。結果としてこれは大正解であった。毎朝、食事を共に作り食べながら、互いの体調や当日の予定の確認、ならびに打ち合わせを行うことができた。また、自分たちで消費する野菜や果物、牛乳などを地元の市場に行くことで、現地の物価を身近に感じることができたと思う。加えて朝から野菜と果物をしっかりとることで、健康管理にもつながった。

また初めて訪れる土地でのさらには混雑する市場での調査を円滑に行うために、現地ではガイドを依頼することにした。市場での調査に根気強く付き合ってくれる、好奇心旺盛な若い女性を4人と、安全面を考慮して男性一人。こちらの目的を文書ならびに口頭で説明して依頼した。特に女性4人に関しては、依頼する際にもあえてインドならではの多様性を重視した（付録に依頼文書あり）。彼女たちはそれぞれ社会的、経済的に異なる出自の女性たちである。二人一組で依頼したが、一組目は高学歴のミドルクラス出身。二組目は社会的（＝カースト）にも経済的にも弱い立場の出身。結果として違いと言えば、使用言語と外国人である我々に対する距離の取り方くらいであっただろうか。市場では皆、颯爽と我々を導いてくれ、また「迷子」が出ないように安全に気を配ってくれた。20代前半の彼女たちは、4人が4人とも素晴らしく有能でかつ可愛らしいガイドさんであった。



ガイドさんたち

③日程表作成

複数の市場を効率よく回るために、どの順番でどのように動くのか、移動手段として何を使うべきなのかをシミュレーションしながら、何度も日程表を作成し直した。その一部が以下である。表に食事という項目を設けたのは、インド料理の多様さを知ってもらい、インドを満喫してもらおうという私の隠れテーマを達成するためである。これもまたどのタイミングでどのレストランに行くべきか、皆の反応をあれこれ想像しながら計画を立てるのは楽しい作業でもあった。

【日程表の一部】

		用務先と用務	必要事項	食事
12月26日	土	午前:花卉市場@CP、Janpath 午後:Old Delhi 夕方:INA Mkt.	0630 South Ex→CP (easy cab) 0800 CP→インペリアル(オート) 1100 CP→South Ex.(オートor Metro) 1230 INA→Chandi Chauk (メトロ) 1630Chandni Chauk→INA (メトロ) * ガイド(Ritambhara&Sonalika 1230-1830)	朝:アパート 昼:カリーム@Old Delhi 夜:ベンガル料理 @Nehru Place
12月27日	日	午前:Sarajini Nagar Mkt, Hauzkhas Village 午後:フマユーン廟、Qutub Minar 夕方:Dilli Haat	1000 South Ex→Sarajini (オート) 1200 Sarajini→HauzKhas (オート) * ガイド(レヌカ&スジャータ 0900-1300) * ガイド(Anand 1400-2000)	朝:アパート 昼:南インド@Hauz Khas 夜:フードコート@Dilli Haat

④現地事情レクチャー

調査前には現地事情に関するレクチャーを数回にわたって行った。特に「市場」、「モール」、「買い物行動」に関係する現状をスライドや映像を用いながら説明した。概要は以下の通りである。

(1) 従来のインドの買い物のあり方

- ・同性同士が連れだって商店へ出かける
- ・購入は男性がメインで行う
- ・外出前から買うものが決まっている
- ・多数の商店を回り、店員と値切り交渉を重ねる

(2) ショッピングモールの出現 (2000 年代～) による変化

- ・家族そろって楽しめるレジャーとしての場
- ・買うという行為を楽しむ
- ・消費の場と娯楽の場との区別

このようなレクチャーだけでなく、参加者全員が各自の調査テーマを報告しあい、テーマを深めていった。また 12 月の出発までの期間、顔を合わせるたびにヒンディー語で簡単

な会話を交わしたり、インドに関する様々な質問を受け、情報を伝えたりしてきたことで「インド調査」に向けての意識を共有し続けることができたと思う。

3. インドに行って

現地滞在時は、調査全般のコーディネートに専心した。調査の進行具合や、参加者の体調などを考慮しながら日程を調整し、交通手段を確保し、ガイドやインフォーマントと交渉、打ち合わせを行った。そして一番重要かつ大変だったのは、参加者の引率ならびに監督であった。常に好奇心旺盛で、時を忘れて調査に夢中になる姿は、実に研究者らしい姿であり、そこから見習う点も反省する点多々あった。けれど大混雑の駅で一瞬の間に（誰とは言わないけれど）姿を見失った時には、寿命が3カ月ほど縮まったことだけは記しておきたい。

自分自身の調査としては、市場にいる女性を観察し、時折ガイドさんにインタビューを行った。今回の市場調査で発見したことは、まず買い物は男性メインと言われていたが、女性の姿（単身ならびに女性同士）が意外と多いことである。これは調査した市場の性格——結婚式用品、衣類、アクセサリ中心——によるものであったためかとも思われた。しかし食材市場にも女性のみで来ている買い物客が散見されたことを考えると、ここから推測されるのはライフスタイルの変化、そして女性の社会進出の増加、であろうか。二つ目の発見（むしろ再確認）は、市場（商店）はやはり男社会だということである。扱う商品の種類を問わず、売り手はほぼ男性であった。市場で働く女性の姿を注意して探していたが、今回の調査地ではほとんど目にすることがなかった。



下着屋さんでも売り手は男性



アクセサリ屋も店主は男性

4. おわりに

ここでごく簡単に、今回の調査での一考察を記しておきたい。女性の社会進出、男女平等が盛んにいわれる昨今のインドである。実際、ガイドをしてくれた女性たちと話をする

と（特に高学歴の二人）、その力強さに感銘を受ける。しかし彼女たちはまだまだ例外でしかないのだろう。インドでは女性の社会進出には、いまだに何かしらの制限があるようだ。その制限の一つは、職種や業種であろう。今回の市場の調査で、働く女性の姿を目にしたのはごく限られた、しかも対照的な場であった。まずは近代的なショッピングモールやブティック、お洒落なカフェといった場で、英語を駆使しながら働く女性。彼女たちは実に颯爽と、かつ堂々と顧客に接していた。その態度は外国人である我々に対しても変わらない。そしてそのような場で働く女性とは対照的だったのが、庶民的な市場で唯一目にした、身の丈以上の大きなほうきで清掃作業をする若い女性（写真参照）。身につけている腕輪を見ると、どうやら新婚さんのようである²。忙しそうな様子に遠慮して、彼女にインタビューを行わなかったことが悔やまれる。



唯一発見した市場で働く女性

どうやら市場において（少なくともデリーでは）女性は、ごくわずかな例外を除いては、売り手としては存在しないようだ。ではそれほどのような観念によるものなのか。また例外的な場が許されるのは、どのようなロジックに基づいているのか。さらに、他の制限についても、経済的、社会的なもの、あるいは婚姻区分によるものが思いつくが、それぞれがどの程度影響しているのか。今回の調査では、問題の所在を明らかにして仮説を立て、ごくおおまかな考察を導くにとどまった。これについては今後もインドを訪れるたびに調査を続ける予定である。そして今回の調査結果をふまえて、私自身の専門である文学作品研究にもう一度立ち返り、研究報告をまとめたいと思う。

さて、私が設定していたもう一つのテーマ、「3人の先生にインドを満喫してもらおう」はどうだったか。「インドってそんなに遠くないんだね」「昨日、あのマーケットにいる夢を見たよ」「もう一度、あの人たちに会いに行きたい」「あのエビカレーは本当に絶品だった」そんな発言を繰り返し聞き、そして時々インドで買った服をにこやかに着ているのを見ると、こちらのテーマはどうやら十分に達成できたようだ。

付記) この報告は、2015年度、追手門学院大学学内共同研究「インドにおける市場（いちば）と女性—インターディシプリンからの試み—」（研究代表者：小松久恵）の成果の一部である。

【付録 ガイドさんへの依頼文書】



Field research for 'Market and Women in India'

We (4 female researchers) are going to conduct research on a several market in Delhi.

It is a part of our project, 'Market and Women in India'.

Each member have their own theme such as 'verbal behavior of a foreign customer and local seller', 'working women and consuming activity' 'traditional bazar as a contact zone' and 'geographical approach to a diversity of market'.

Since many of us has no experience in India, we want to ask few (2-3) girls to become our assistant for research under the following conditions:

1. Time and Date

26th December from 1230 to 1830 (6hrs including lunch).

2. Place to go

Old Delhi (Chandni Chauk, Urdu Bazar) and INA market.

3. Qualification

Work experience and language skills are not problem.

We prefer;

- ①female
- ②patient person
- ③person who can stand to walk a lot
- ④who likes shopping and people-watching

4. Substance of work

- ①research assistant and interpreter
- ②recording secretary(photo/sound)

5. Payment

6hrs for 3000 Rs. (+lunch)

¹ 現代ヒンディー語文学を代表する女性作家 **Alpana Mishra** の作品には、1 ルピー単位で家計簿を細かく検査する夫や、妻の衣類や装飾品に至るまですべてを管理する夫が登場する。拙稿「女が「私」を描くとき」現代インド5 周縁からの声, 東京大学出版会, 2015年 pp238-248 参照。

² 手首からひじの下までびっしりと赤と白の腕輪をはめるのは、新婚の証。もっともこれはデリーを中心とする北インドに限られた文化だ、とガイドさんの談。